

2023 年漁期底びき網漁業の操業状況

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

2 担当者名

平川直人

3 要旨

福島県沿岸漁業は本格操業に向けた移行期間にあり、底びき網漁業においては計画的に生産の拡大が進められ(図 1)、2023 年漁期から宮城県沖での操業も開始された。効率的な操業拡大を支援するため、底びき網漁業操業日誌の分析を行った。その結果、曳網は水深 100m や相双沖 200m で多く、宮城県沖やいわき市沖 200m で少なかった(図 2)。一方、曳網 1 時間当たりの漁獲量(以下、CPUE)は、宮城県沖の一部や水深 200m 付近で高かった。これらのことから、曳網時間の少ない宮城県沖やいわき市沖水深 200m 海域での操業を増やすことで、資源への負荷を軽減した生産拡大が図れるものと考えられた。

- (1) 2023 年漁期(2023 年 9 月~2024 年 6 月)底びき網漁業操業日誌に記録されている投網・揚網時刻から漁獲努力量(曳網時間)を算出した。操業位置を緯度経度 5 分毎区分し、各区画内の総漁獲量を総漁獲努力量で除し CPUE(kg/時間)を算出した。
- (2) 曳網時間は徐々に増加しており、2023 年漁期は 20 千時間であった。震災前 3 年間(2008-2010 年)平均曳網平均時間は 115 千時間であり、2023 年漁期曳網時間は、震災前の 17%であった。

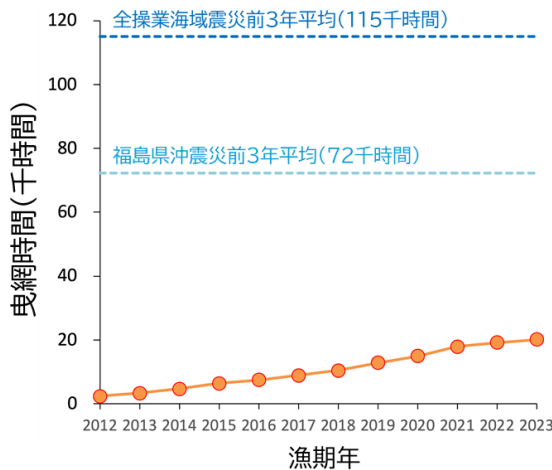


図1 2012~2023 年漁期福島県底びき網漁業曳網時間

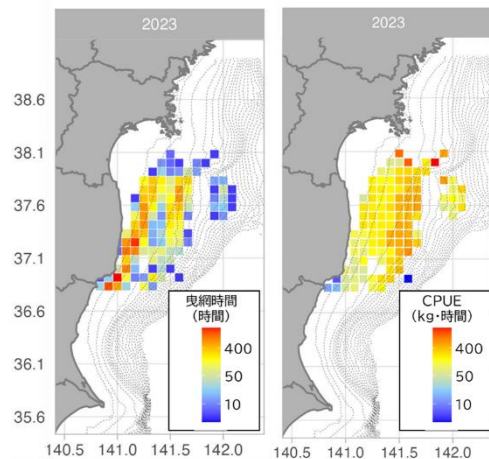


図2 2023 年漁期底びき網漁業曳網時間(左図)と CPUE の分布(右図)

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3~令和 7 年度
- (2) 研究課題名 カレイ類資源管理手法の開発

5 主な参考文献・資料

2022 年漁期の底びき網漁獲努力量の震災前との比較、令和 5 年度参考となる成果